



2023年12月6日

## 製造業者への通知

### スプリング効果についてのドライバーの適合性評価の更新案

2023年3月にR&AとUSGAはゴルフボールに適合性に関するローカルルールひな型（MLR）の提案についての告知とコメントを発表し、繰り返し使用した後のドライバーの性能を研究することへの興味もまた明らかにしました：

特性時間（CT）の制限値を減じることは実行しない一方で、R&AとUSGAは多くの現在のドライバーがCTクリープのレベルを示している—CT値が製造/初期使用の時点では適切であるが、（特に競技の最も高いレベルにおいて）繰り返し使用した後で不適合となり得ることを懸念しています。このことは用具規則の目的と意図に反しています。そうしたことから、R&AとUSGAはこの現象の包括的な研究に着手しています。このトピックのさらなる詳細はまもなく用意されることとなります。

競技現場でテストされたクラブのCT値が制限値+測定誤差を超えていると判明した理由は2つの要因によります：(1)初期のCT値が $257\mu s$ に近位過ぎる、そして(2)引き続いたCT値の変化が繰り返される速い速度のインパクトによって生じる（「CTクリープ」）。

そうしたことから、R&AとUSGAは2024年3月31日から効力を有してドライバーの適合性評価手続きを修正することを提案しています。この手続き案にしたがって、製造業者は引き続き適合性の裁定を求めている各モデル/ロフトのクラブ1個を提出することとなります。現行の制限値 $239\mu s$ とテスト許容誤差 $18\mu s$ は変更されておらず、したがってCT値が $257\mu s$ を超えるクラブは引き続き不適合と裁定されることとなります。

しかしながら、R&AとUSGAはそうしたクラブの個体数のステータスを検証するために追加サンプルの提出を要請することによって、上限に極めて近いクラブ（すなわち、 $CT \geq 251\mu s$ ）をより厳しく評価する権限を有しています。追加サンプルが要請された場合、そうしたサンプルの提出と評価のプロセスは、さらに8つのサンプルを提出し、必要であれば別の8つのサンプルの提出まで及ぶISO 2859-1のプロトコルと一致することとなります：

ISO 2859-1, Table 10-E-2, ダブルサンプリング計画, AQL 4.0

- (a) 8つのサンプルを測定。不適合がなければ合格。不適合が2つならそのロットは不合格。
- (b) 最初の8サンプルの内、不適合が1つ見つかった場合、さらなる8サンプルを測定する。

(c) (16 サンプルの内) 不適合が合計 1 つであれば合格。不適合が合計 2 つであればそのロットは不合格。

このサンプリング計画でそのサンプルロットが不合格であることを示す場合、そのクラブは用具規則パート 2、セクション 4.c.(i)に不適合と裁定されることになります。

加えて、R&AとUSGAはCTクリープの存在と大きさを決定するために提出されたドライバーを一連のインパクトでの評価を行う権限も有しています。限られた数の速い速度でのインパクト（例えば、125mphで150回のインパクト）の後で $257\mu s$ を超えるCT値を有することが判明した提出されたクラブは、製造業者と話し合われ、そのクラブが用具規則パート2、セクション4.c.(ii)に違反してクラブヘッドのスプリング効果に不当に影響を及ぼす意図や効果を有する特徴や技術を組み込んでいないことを示すデータや証拠が提供されるまでは裁定書を受け取ったり、適合ドライバーヘッドリストに掲載されることはありません。